

政務調査研究視察 報告書

報告者：築瀬 太

視 察 日	平成23年7月14日（木）
視 察 内 容	ゲリラ豪雨に備えた和光市との協定について
視 察 者	中根勝美、永田 寛、神谷寿広、加藤義幸、築瀬 太

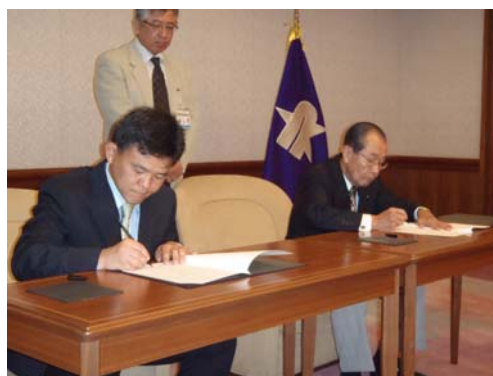
板橋区の概要

東京都23区の北部に位置し、戸田市や和光市と接している。人口は53万2千人。都内有数の工業地区で、光学機器を中心に産業が発展。現在は、区東北部を中心に印刷・精密機器・化学・鉄鋼などの工場群が立地占大規模住宅団地開発により都市化・宅地化が進行、住宅都市の性格も強くなってきている。

<協定締結の経緯>

平成22年7月5日、板橋区では時間最大雨量113ミリメートルという局地的な豪雨に見舞われ、区内各所で道路冠水60件、浸水被害234件など多くの被害が発生した。

そのような状況を受け、板橋区では、今後の水害や地震等に備え、白子川を挟む和光市との災害時における一時避難所の提供や、平常時からの情報交換・情報提供等を含む相互応援協定が必要であり、和光市側との協議により災害時における相互応援協定を締結した。



<協定で定めた内容>

- ・被災者の救出・救護・医療・防疫
- ・必要な資器材及び生活必需品の提供及びあつせん
- ・必要な職員の派遣

災害時には同時被災することが想定されるが、境界が白子川を挟んで入り組んでおり、それぞれの住民が川を越えて避難することなく近隣の避難所を相互に融通し合うことを中心に防災体制を図るため、幅広い応援対策及び応急復旧対策を定めている。

〔感想・岡崎市への反映〕

本市も平成20年8月末豪雨では、大きな被害を受けており、板橋区と和光市のゲリラ豪雨に備えた災害時における相互応援協定を参考に、震災や水害などの大規模災害で被災した場合に備え、周辺自治体などと連携を推進していく必要があると考える。

今後も市民の生命と財産を守り、安全・安心なまちを実現するため、一層の防災体制の強化に取り組んでまいりたい。



政務調査研究視察 報告書

報告者：加藤 義幸

視 察 日	平成 23 年 7 月 15 日 (金)
視 察 内 容	自治体総合フェア (明日を支える公民連携)
視 察 者	中根勝美、永田 寛、神谷寿広、加藤義幸、築瀬 太

《自治体総合フェア》

7月13日～15日までの3日間開催。総入場者 11,120 人。企業展示と行政展示による展示会とカンファレンス・セミナーで構成。

*展示構成

①電子自治体・地域情報化ゾーン

ICT や IT の利活用により、業務効率や行政サービスを向上し、地域の情報化を進展させ、住民・地域・行政をつなぐ電子自治体と地域情報化を推進する展示ゾーン

②災害対策・安全安心ゾーン

地震・風雨水雪被害等の対策や危機管理、犯罪事故等の防犯安全対策により地域と住民をまもる災害対策と安全安心を推進する展示ゾーン

③健康・福祉ゾーン

一人ひとりが明るく潤いをもち、自立して安全な生活がおくれる地域社会を築くための健康増進と福祉対策を推進する展示ゾーン

④地域活力・まちづくりゾーン

誰もが豊かな生活をおくるために、地域や住民との協働により、活力あるまちづくりや環境にやさしい地域社会を実現する展示ゾーン

⑤自治体トピックスゾーン

自治体の迅速に取り組まなければならない緊急課題や最新技術を総合的・横断的な観点から提案する展示ゾーン

(1) 住民視点の行政窓口・フロア改善コーナー

(2) 地域見守りネットワークコーナー

(3) 人と環境にやさしい交通・車両コーナー

⑥特別展示「自治体クラウド推進コーナー」

自治体の IT 環境の最適化と IT コストの削減に向けて、クラウドコンピューティングの有効活用と課題解決をめざす

⑦行政展示

官公庁の政策や取り組み、自治体の施策、地域資源・地域情報を発信し、公民連携と交流を推進する展示

(1) 官庁展示

(2) 地域資源・情報発信コーナー

(3) 移住・二居住・定住促進カタログコーナー



【感想・岡崎市への反映】

災害対策・安全安心ゾーンの中の「再循環自律式トイレット」に興味を持った。密封循環式で、処理用添加剤「DG19」により、臭いを一切出さないで流出物を安定させるトイレ。本市においては、災害時の応急トイレとして下水管に直接つなげるトイレの配備が進んでいるが、下水管が損傷した場合には、その効力を発揮できない場合があります。いつの場合にも衛生的に使えるトイレの普及設置を望むところです。